

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

		新規／継続		継続
事業名	クルーズ客船誘致事業	所管課名	港湾局 港湾振興部	クルーズ課
事業開始年度	平成21年度	基本	施策コード 主 5-6-2 再	
根拠法令	なし	分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている	
行政計画上の位置づけ		計画	施策	国内外への戦略的なプロモーションの推進
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 海外船社によるアジアクルーズ市場開拓が進むにつれ、中国・韓国と近接する博多港のクルーズ寄港地としての需要が増大。客船寄港による経済効果が大きいことから、博多港の強みを生かした積極的な誘致活動が必要となっている。	施策成果指標	事業群 クルーズ客拡大への取組み	
			外航クルーズ客船の寄港回数(H28:130回)	

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 船社・旅行代理店等	対象をどのような状態にしたいのか クルーズ港としての博多港の認知度・イメージを向上し、クルーズ客船の寄港増加・定着化につなげる。

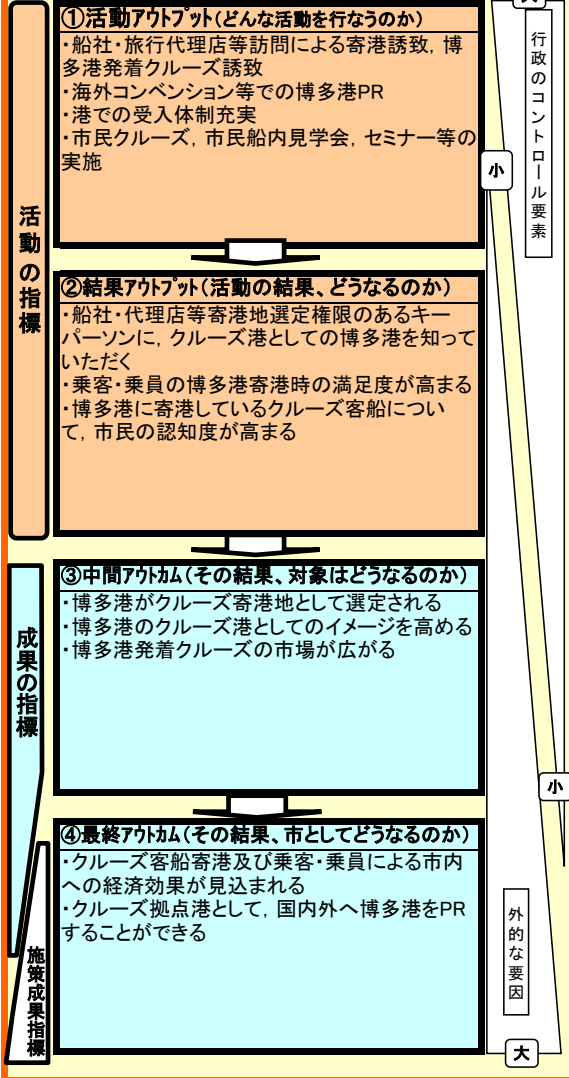
26年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか				
実施手法	☒ 委託含む	☐ 補助金含む	☐ 負担金含む	
・クルーズ客船誘致事業 海外船社、国内クルーズ関係企業等に訪問し、寄港誘致 海外コンベンションに多数参加し、クルーズ港としての博多港をPR ・受入体制の充実 中央ふ頭内でのアクセス改善等、港での受入体制の強化 ※港での受入にかかる業務の一部(交通整理等)を委託 ・博多港発着クルーズ振興 市民クルーズ、市民船内見学会等を実施 ※博多港クルーズセミナー運営にかかる業務の一部を委託				
事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	6,751	23,590	9,283
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	6,751	23,590	9,283

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	船社・旅行代理店等訪問回数	目標	40	50	70
		実績	47	73	
		達成率	117.5%	146.0%	
	市民参加イベント(市民クルーズ、見学会等)実施回数	目標	8	10	12
		実績	10	12	
		達成率	125.0%	120.0%	
成果の指標	外航クルーズ客船寄港回数(※暦年)	目標	100	110	120
		実績	22	99	
		達成率	22.0%	90.0%	
		目標			
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

事業名		先進的産業集積等推進事業(ふくおか健康未来都市構想の推進)		所管課名	港湾局	アイランドシティ事業推進部	立地促進課				
事業開始年度		平成15年度		基本 本 計 画	施策コード	主 8-2-1	再				
根拠法令		なし			分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている					
行政計画上の位置づけ					施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり					
					事業群	アイランドシティのまちづくり					
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 高齢化などの社会情勢を踏まえて、アイランドシティへの産業集積を 具体化するため。			施策 成果 指標	アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドももち(SRP他 区)の従業者数 (H28年度:21,200人)(H34年度:30,000人)						

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか アイランドシティの住民をはじめとした市民及び健康・医療・福祉関連事業者。	対象をどのような状態にしたいのか 「生活」(健康で安心の居住環境)と、「産業」(次世代を支える健康・医療・福祉分野の研究開発ビジネス拠点)の両面から、生涯を通じて誰もがいきいきと暮らすことができる健康未来都市づくりの実現。

26年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか				
実施手法	☒ 委託含む	☐ 補助金含む	☒ 負担金含む	
①健康・医療・福祉関連分野の事業者誘致活動 ②アイランドシティ生涯すこやかタウン協議会の活動推進・支援(負担金) ・健康セミナー、照業ボランティア活動、運営体制の検討 ③健康増進のまちづくりの推進 ・福岡大学との包括連携協定にもとづく、認知症・介護予防プログラムの実施に向けた準備 ・健康づくりイベントの開催(委託) ・スロージョギング教室の共催 ④ふくおか健康未来都市構想の評価・見直し 有識者からヒアリングをしつつ、今後の誘致対象の整理や、健康のまちづくりの推進にむけた取組みの方針を取りまとめた。				
事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	3,300	3,300	6,300
	歳入	10,426	10,045	10,338
	特定財源 一般財源	-7,126	-6,745	-4,038

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	企業との協議件数(件)	目標	100	100	100 年度
		実績	144	120	
		達成率	144.0%	120.0%	
	すこやかタウン協議会諸会議の開催件数(件)	目標	15	15	15 年度
		実績	15	15	
		達成率	100.0%	100.0%	
成果の指標	土地処分面積累計(ha)	目標	8.2	11.1	10.6 年度
		実績	7.1	9.7	
		達成率	86.6%	87.4%	
		目標			13.8 年度
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	行政のコントロール要素
	○健康・医療・福祉関連事業者への誘致活動を行う。 ○立地企業や住民とともに、すこやかタウン協議会の活動を実施する。 ○住民の健康づくりを目的とした活動やイベントを実施する。	
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	
	○事業者との協議が進展する。 ○住民の健康意識が高まり、介護や認知症の予防活動が積極的に行われる。 ○立地企業同士や立地企業と住民とのネットワークができる。 ○健康のまちとしてのアイランドシティの認知度が高まる。	
成果の指標	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	外的な要因
	○事業者へ土地分譲を行い、新たな施設が立地することで産業集積が進む。 ○住民だれもが生涯を通じていきいきと暮らすことができるようになる。	
施策成果指標	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	大
	○福岡市のモデルとしての健康未来都市づくりが実現する。	

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

		新規／継続		継続	
事業名		先導的産業集積等推進事業(産業誘致経費)	立地促進課		
事業開始年度	平成15年度	実施主体	福岡市		
根拠法令	なし				
行政計画上の位置づけ					
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 「新しい産業の集積拠点の形成」を目標に「先進的なまちづくり」を進めており、九州・西日本の市民生活や地域経済の活性化に大きく貢献するとともに、アジアに向けた都市戦略上も重要な機能を担うため。				
施策成果指標	○アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイド百道(SRP地区)の従業者数(H28年度:21,200人, H34年度:30,000人)				

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか アイランドシティ ①「センター地区」 ②「新産業・研究開発ゾーン」	対象をどのような状態にしたいのか ①集客・商業施設の立地による「賑わいとふれあいの場」形成 ②福岡市経済の活性化に資する成長性のある分野の産業集積

26年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 ☐ 委託含む ☐ 補助金含む ☐ 負担金含む

○事業用定期借地制度の導入による集客・商業施設等の誘致の協議。
○企業立地支援制度(立地交付金等)を活用した企業誘致活動の推進。

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	0	10	1,532
	歳入	0	8	1,149
	特定財源 一般財源	0	2	383

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	企業との協議件数(件)	目標	100	100	30年度
		実績	92	95	100
		達成率	92.0%	95.0%	
		目標			年度
成果の指標	土地処分面積累計(ha)	目標	7.0	7.0	30年度
		実績	5.1	7.0	18.6
		達成率	72.9%	100.0%	
		目標			年度

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	○関連事業者への誘致活動の実施 ○企業の立地促進につながる、関係機関との協議調整による環境整備 ○アイランドシティのPR活動の推進	行政のコントロール要素 大 小
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	○事業者との協議が進展する ○ケースに応じて用途地域変更や定借導入等 ○情報の発信・収集による企業側の需要発掘	
	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	○事業者へ土地処分を行い、新たな施設が立地し、産業集積が進む。 ○アイランドシティの「賑わいとふれあい」の創出や生活利便施設の整備により、全体の土地分譲が進む。	
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	○福岡市を牽引する「先進的なまちづくり」の実現	

施策成果指標
外的な要因
大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)					新規／継続		継続	
事業名		アイランドシティ創エネ・省エネ型まちづくり推進事業		所管課名	港湾局	アイランドシティ事業推進部	立地企画課	
事業開始年度		平成23年度		基本計画	施策コード	主 4-1-3	再 8-2-1	
根拠法令		なし			分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
行政計画上の位置づけ					施策	地球温暖化対策の推進と自律分散型エネルギー社会の構築		
背景					事業群	エネルギーのエリアマネジメントの推進		
	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に		東日本大震災の発生によりエネルギー政策が転換期を迎えたことを踏まえ、平成23年8月に「アイランドシティ自然エネルギー活用ビジョン」を策定し、市5工区の今後のまちづくりの将来像を示した。		施策成果指標	○家庭部門における1世帯あたりのエネルギー消費量(H28:約14%減) ○業務部門における延べ床面積1㎡あたりのエネルギー消費量(H28:約9.2%減) ○再生可能エネルギーの設備導入量(H28:70,000kW)		

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか アイランドシティ市5工区開発事業者、住民	対象をどのような状態にしたいのか ・事業者が開発時に率先して環境配慮対策を導入する。 ・住民が意識的に効率的なエネルギー利用など環境配慮行動を取る。

26年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか				
実施手法	☒ 委託含む	☐ 補助金含む	☐ 負担金含む	
主に住宅用地を中心に、公募画地毎にビジョンに沿ったコンセプトを定め、スマート化を進めていくもの。				
・「CO2ゼロ街区」におけるエネルギー使用量等の分析 「CO2ゼロ街区」において、取得したエネルギー使用量等のデータからエネルギー分析を実施。 ・第2期公募用地の先進的な環境配慮型住宅(スマートマンション)の形成 今後開発が進む市5工区において、開発事業者に対し、創エネ・省エネ対策等の積極的な導入を誘導するため、集合住宅のスマート化に関する調査、先進的事例にアライン調査、環境配慮に関する検討などを実施。				
事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	3,728	3,240	5,000
	歳入			0
	特定財源			
	一般財源	3,728	3,240	5,000

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	CO2ゼロ達成に向けた事業者との協議等(回数)	目標	-	-	年度
		実績	5	15	-
	環境配慮街区の開発協議等(回数)	目標	-	-	年度
		実績	-	3	-
成果の指標	市5工区のスマートハウス、スマートマンションの誘導実績(戸数累計)	目標	178	55	年度
		実績	12	35	約3000
		達成率	6.7%	63.6%	
		目標			年度
		実績			
		達成率			

【26年度目標値変更の理由】
年度ごとの計画戸数累計を目標にすることが適当であるため。

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	行政のコントロール要素
	・「CO2ゼロ街区」におけるエネルギーマネジメントなど、住民の環境配慮行動を促す仕組みづくりを開発事業者と共に進める。 ・先行事例調査や支援制度の活用検討などを実施し、開発事業者に対して、魅力的な環境配慮型のコンセプトの提示、スマート化への誘導を行う。	
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	
	・開発事業者が提供する仕組みの中で、住民が効率的なエネルギー利用や環境配慮行動を実践する。 ・開発事業者が、福岡市の誘導のもと、環境配慮への意識を高め、開発を進める中でスマート化に関するノウハウを取得していく。	
成果の指標	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	外的な要因
	・開発事業者が提供する仕組みを活用しながら、効率的なエネルギーの利用や環境配慮に関する住民活動が活発化するとともに、アイランドシティ内にも波及する。 ・スマート化に関するノウハウを取得した事業者が、市5工区全体で積極的にスマートハウス、スマートマンションの開発に取り組む。	
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	
	・アイランドシティが、創エネ・省エネ型まちづくりを推進する先導モデルとして内外で広く認識され、実施されている環境配慮に関する住民活動や開発ノウハウが、全市へと波及していく。	

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

			新規／継続	継続
事業名	アイランドシティ・アーバンデザインセンターの運営支援		計画調整課	
事業開始年度	平成24年度			
根拠法令	なし			
行政計画上の位置づけ	\			
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に アイランドシティ整備事業の推進のためには、先進的モデル都市として行政のみでなく、住民や立地企業、大学等の様々な視点や発想をもって事業を進めていくことが重要であり、公・民・学が連携した新しい取り組みを実施し、まちの魅力向上を図り、広く情報発信していく必要がある。		施策コード 主 8-2-1 再 分野別目標 国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている 施策 高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり 事業群 アイランドシティのまちづくり 施策成果指標 アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドももち(SRP地区)の従業者数 (H28年度: 21,200人) (H34年度: 30,000人)	

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 市民、企業	対象をどのような状態にしたいのか 公・民・学が連携して先進的なまちづくりの取り組みを実施することで、まちの魅力向上、高質な住環境の形成を図り、またこれらの取り組みを広く発信して、アイランドシティのイメージ向上・ブランド化を図り、ひいては居住者や立地企業の増加に繋げること。

26年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか				
実施手法	☐ 委託含む	☐ 補助金含む	☒ 負担金含む	
①情報発信・プロモーション 集客イベントの実施(5件)/現地施設を活用した図書コーナー等情報発信 ホームページ・メールマガジン等効果的な情報発信の実施 ②まちづくり活動の実施・支援 住民がまちづくりに関わるきっかけとなる事業やまちの活性化を図る事業の実施支援(34件) ③大学・企業による調査研究 実証実験の企画(1件)、 教育連携プログラムの実施(5件)、研究実施支援(12件)				
事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	40,454	41,467	42,344
	歳入			
	特定財源	30,340	31,100	31,758
	一般財源	10,114	10,367	10,586

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	UDCIC来館者・イベント参加者数	目標 8,500	10,000	10,000	年度
		実績 7,529	10,057		
		達成率 88.6%	100.6%		
		目標			年度
成果の指標	アイランドシティの認知度(市政アンケート調査: %)	目標 87	87	87	年度
		実績 83	78		
		達成率 95.4%	89.7%		
		目標			年度
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	行政のコントロール要素
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	
	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	
成果の指標	施策成果指標	外的な要因

大 小

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)					新規／継続		継続				
事業名		野鳥公園整備事業		所管課名	港湾局		計画部		事業計画課		
事業開始年度		平成24年度		基本 計 画	施策コード	主 4-3-1		再 8-2-1			
根拠法令					分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている					
行政計画上の位置づけ					施策	生物多様性の保全とみどりの創出					
					事業群	生物多様性の保全と活用					
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に			施策成果指標	生物多様性を理解し、その保全を意識して行動している市民の割合 (H28:12.5%)						
	平成5年、アイランドシティ基本計画において、親水緑地(野鳥公園)として位置づけられている。さらに、アイランドシティの公有水面埋立免許出願(平成5年)において、親水緑地として野鳥公園を位置づけ、当認可(平成6年)において、野鳥公園を含むエコパークゾーンの保全施策を講じることが運輸省港湾局長から指導された。										

【事業概要】	
対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 市民	対象をどのような状態にしたいのか 人と自然の共生を象徴する施設である野鳥公園を多くの市民が利用し、生物多様性への理解が深まる。

26年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか				
実施手法	☐ 委託含む	☐ 補助金含む	☐ 負担金含む	
①野鳥公園整備に関する検討委員会開催 野鳥公園における施設整備等に関し専門的見地から意見や助言を受けるための検討委員会を設置し、全2回開催した。 第4回:野鳥公園整備の方向性について 第5回:野鳥公園基本計画(整備プラン)(素案)について ②とりまとめた野鳥公園基本計画(整備プラン)(素案)について、パブリック・コメントを実施。併せて公園の名称についても市民からの募集を行った。				
事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計		6,021	30,715
	歳入			
	特定財源 一般財源	0	6,021	30,715

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	野鳥公園整備に関する検討委員会の開催回数	目標	3	2	年度
		実績	3	2	
		達成率	100.0%	100.0%	
	基本計画策定及び基本設計	目標	100	100	27年度
		実績	0	50	
		達成率	0.0%	50.0%	
成果の指標		目標			年度
		実績			
		達成率			
		目標			年度
		実績			
		達成率			

